

起因

昭和31年に丸山ダムが発電と木曽川流域の洪水調整を目的として建設された。

昭和58年9月28日、木曽川の戦後最大規模の洪水により、美濃加茂市をはじめ坂祝町、八百津町等では大きな浸水被害が起き、この災害を機に国による堤防と丸山ダムのかさ上げ工事（新丸山ダム建設工事）が計画された。

新丸山ダムは、完成から60年以上が経過した丸山ダムをかさ上げし、近年の洪水調整の機能強化等を目的として昭和61年から事業が着手され、令和3年12月18日に本体工事起工式を行い、35年を経て本体工事が開始される。



新丸山ダムの本体着工へ（起工式）

令和11年の新丸山ダム完成によって期待される主な機能

①災害対策

下流域を水害から守るため、洪水調節容量を現在の2,017万 m^3 から7,200万 m^3 に増加することにより、洪水調節機能を強化する。

昭和58年9月洪水と同規模の洪水で想定されている浸水想定区域約2万ha、被害人口約36万人、浸水家屋数約13万世帯への被害を無くす。

②流水の正常な機能維持

渇水時などに河川の流量が減ることによって起きる、川に生息する動植物の生態系の減少、海水が河川を遡上することによる水利用への影響、水質の悪化などを防ぐために、新丸山ダムなどからの補給によって、河川環境の保全と既得取水の安定化に必要な河川流量1,500万 m^3 を確保する。

③水力発電（再生可能エネルギー）

丸山ダム発電所及び新丸山ダムにおける最大出力が18万8千kwから21万500kwとなり、新たに22,500kwの増電を行う。



新丸山ダム完成イメージ

瑞浪市と八百津町を結ぶ橋と道路の整備

新丸山ダムの建設に伴い五月橋の架け替えが行われ、一般県道大西瑞浪線が整備される。

日吉町に隣接する八百津町へのアクセスが強化されることで防災、観光など様々な面での交流の強化も期待されている。

議会としても視察を行い、適切に事業が進められているか確認を行っている。



新五月橋完成イメージ